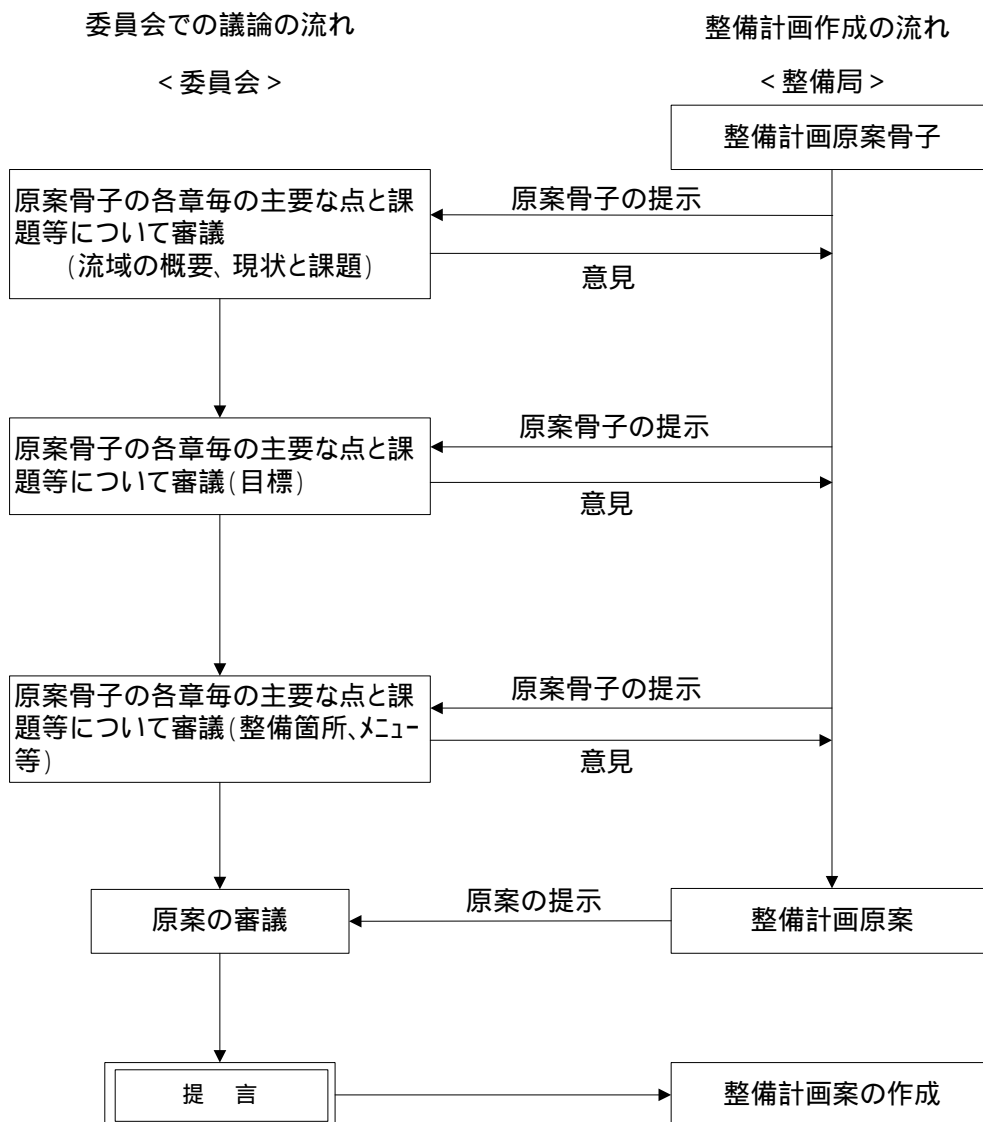


櫛田川流域委員会の進め方について

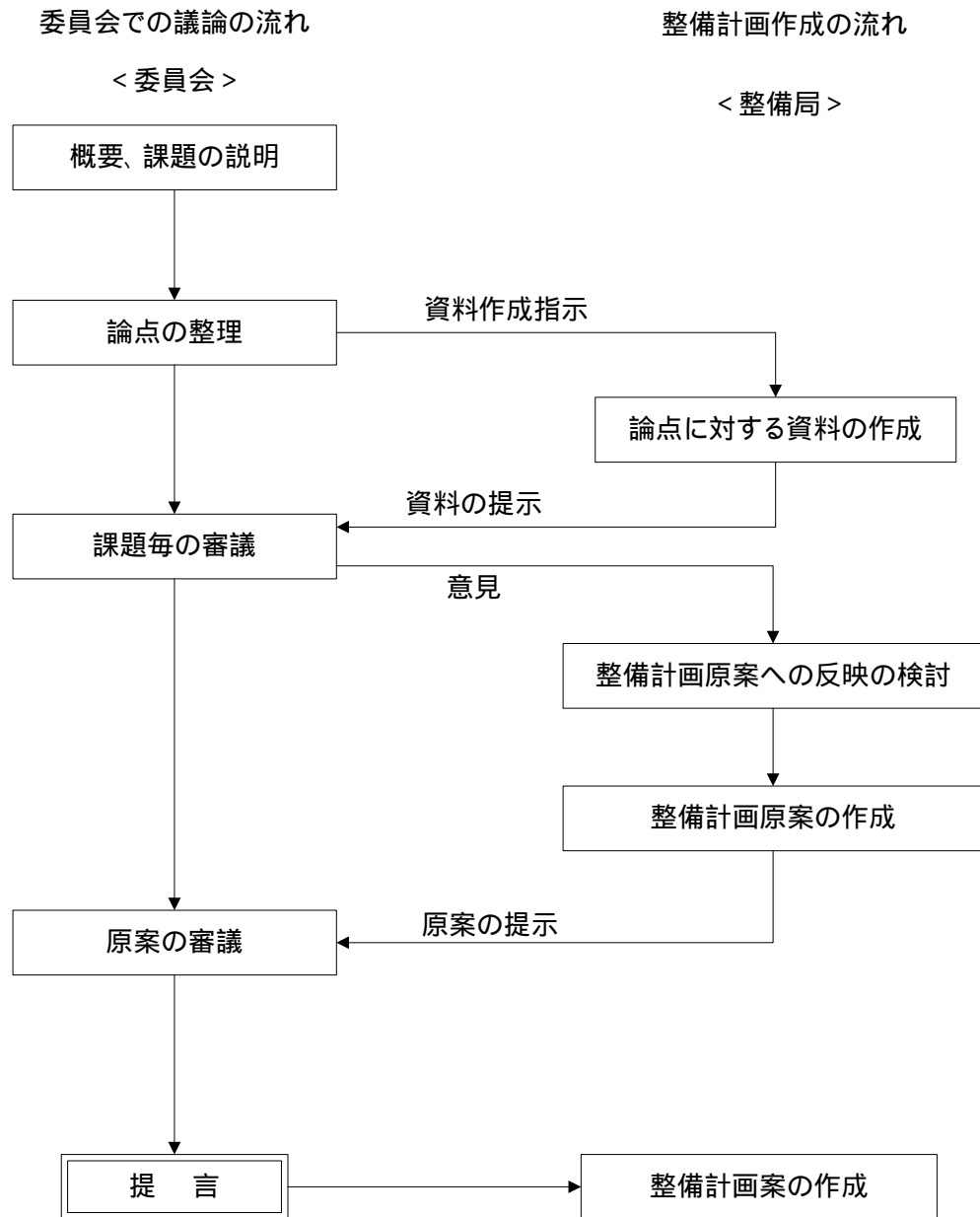
パターン1：河川管理者が主な論点を提出
作成する整備計画原案の流れに合わせて審議を進める。

パターン2：委員会で主な論点を整理
委員会で論点の整理を行い、審議を進める。

パターン1:河川管理者が主な論点を提出



パターン2: 委員会で主な論点を整理



1. 河川整備基本方針と河川整備計画

「河川整備基本方針」

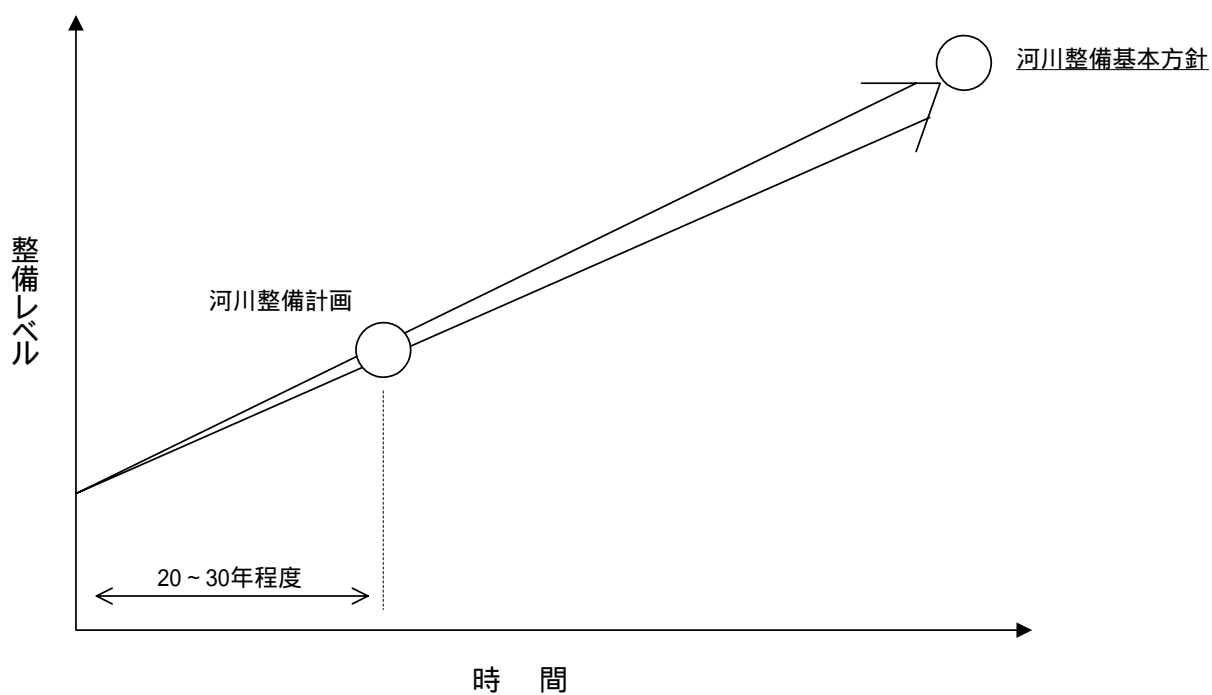
河川管理者が全国的なバランスを確保しつつ、河川整備の基本方針として、基本高水、計画高水流量等を定めるもの。

長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針

「河川整備計画」

河川整備基本方針に基づき、20～30年後の具体的な河川整備の内容を定めるもの。

河川整備基本方針を視野に入れた、具体的な実施方策



河川整備の流れのイメージ

河川整備基本方針と河川整備計画の概要

	河川整備基本方針	河川整備計画
内 容	長期的な河川整備の方向性	段階的・具体的な整備方策
記載事項	<p>河川の総合的な保全と利用に関する基本方針</p> <p>河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本高水 ・計画高水流量 ・計画横断形に係る川幅 ・流水の正常な機能を維持するために必要な流量 	<p>河川整備の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象区間、対象期間 ・河川整備の目標 <p>河川工事の実施に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川工事及び河川の維持の目的、種類、施工の場所
計画策定 の手続き	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備審議会における意見 <p>生活の基盤から国土の基盤まで、トータルにまちづくり、地域づくりを推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学識経験者等の意見</u> = <u>流域委員会</u> ・地域住民の意見 ・地方公共団体の長の意見 <p>河川の特性と地域の風土・文化等の実情に応じた川づくりを推進</p>

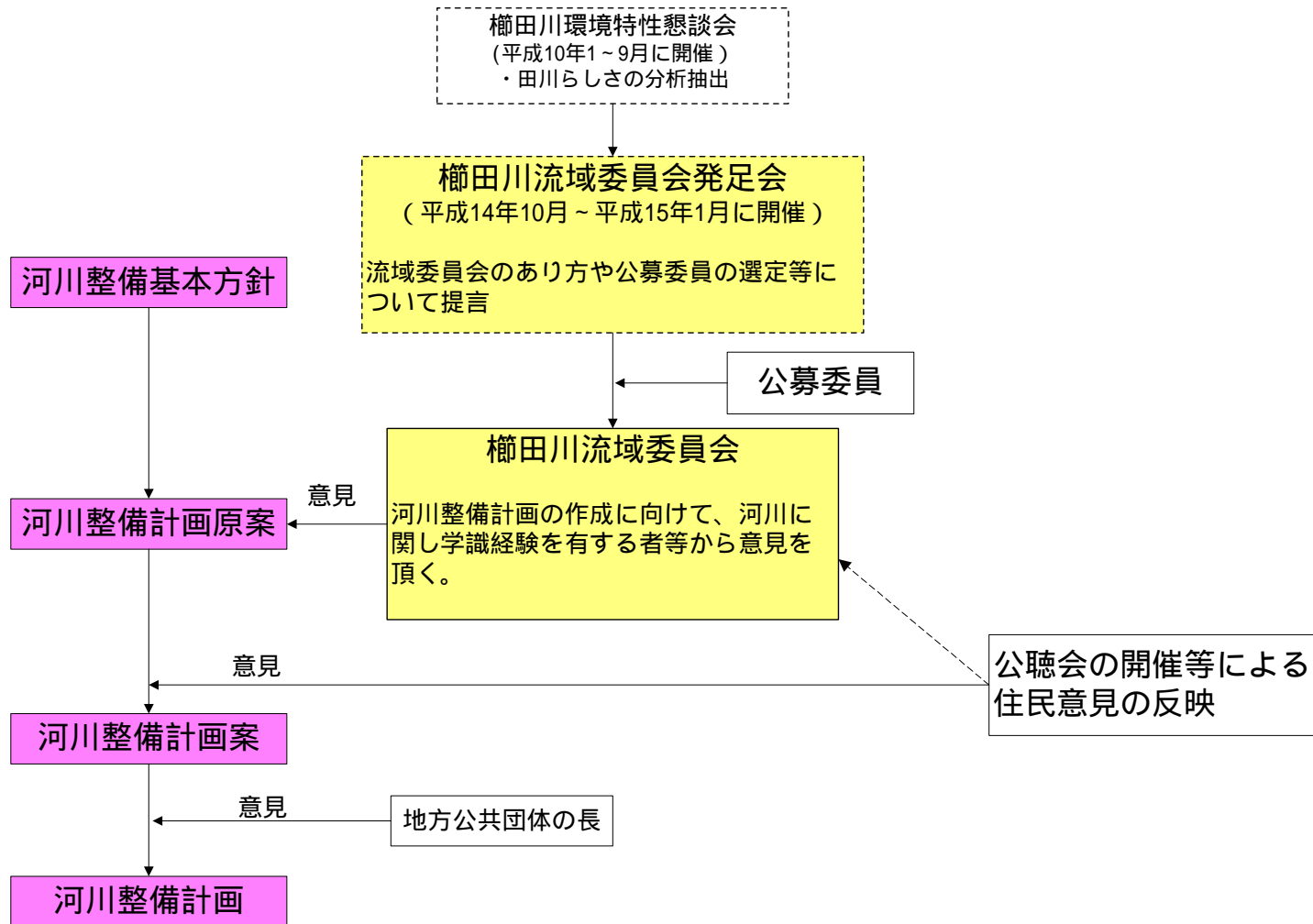
注) 基本高水：洪水防御計画の基本となる洪水で、ダム等の人工的な貯留施設による調節を受けず、流域に降った雨がそのまま河川に流れ出る洪水

計画高水：基本高水が各種の貯留施設による洪水調節された後に、河川に流れ出る洪水

2. 櫛田川流域委員会の位置付け

河川整備計画策定の流れ

住民意見の反映手法

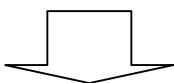


3. 櫛田川の特徴と課題

1) 治水

主な特徴

- ・完成堤防は約38%に過ぎず、堤防整備率が低い。
- ・橋梁等が、洪水の流れを妨げている。
- ・両郡橋付近より上流は、川幅が狭く、洪水が流れにくい。
- ・被川は、洪水時200m³/s分派の計画ではあるが、現在洪水を分派できる流量が十分でないため、櫛田川から洪水を流していない。



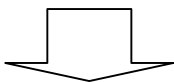
課題

- ・当面の目標を設定し、20～30年間で優先的に実施すべき内容の検討が必要である。
- ・整備途上である治水対策に対して、被害を最小化するため、関係機関等と連携して水防活動等のソフト対策等の整備が必要である。
- ・被川の洪水分派と環境の保全の調和について検討が必要である。

2) 利水

主な特徴

- ・下流部では、連続する頭首工からの農業用水等の取水が盛んである。
- ・アユを中心とした漁業が盛んである。
- ・蓮ダムによって、松阪市や伊勢市等への水道用水の供給が行われており、これらの地域の発展に欠かせない水源となっている。



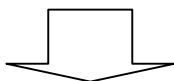
課題

- ・水資源の広域的かつ合理的な利用の促進が必要である。

3) 自然環境

主な課題

- ・河口部の干潟、河畔林、アユの産卵場、櫛田川を特徴づける豊かな環境が点在している。
- ・水質は、BODで見ると環境基準を満足している。



課題

- ・河道内樹木群や干潟等の動植物の生息場や景観場として良好な環境を保持している箇所では、治水対策に対しての環境の保全への配慮が必要である。
- ・環境と調和した川づくりについて、川全体のバランスに配慮した整備が必要である。

4) 櫛田川を取りまく社会的な環境

主な特徴

- ・伊勢本街道に隣接する両郡橋付近の古い町並みは、往事の繁栄を偲ばせる。
- ・伊勢神宮とつながりのある神山神社や斎宮跡が沿川に存在する。
- ・地域住民の身近な水辺空間として利用がなされている。



課題

- ・沿川に分布する様々な歴史、文化的遺産を活用し、地域が連携し川づくりを進めていく必要がある。
- ・地域住民の水辺の安らぎの場や自然体験できる場などとして、櫛田川の水辺空間の利用についての検討が必要である。
- ・川づくりに対する地域住民のニーズの変化を踏まえ、適正な維持管理の方法や市民との協働の方策について検討が必要である。